

ワークショップ

臨床工学技士養成施設における高気圧酸素治療教育の現状と今後の課題

廣瀬 稔^{1,2)} 小鷹丈彦^{1,3)} 工藤元嗣^{1,4)}

中島章夫^{1,5)} 木村主幸^{1,6)}

- | | |
|----|--------------------------|
| 1) | 日本臨床工学技士教育施設協議会 教育委員会 |
| 2) | 北里大学 医療衛生学部 臨床工学専攻 |
| 3) | 北海道ハイテクノロジー専門学校 臨床工学技士学科 |
| 4) | 吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科 |
| 5) | 杏林大学 保健学部 臨床工学科 |
| 6) | 北海道科学大学 保健医療学部 臨床工学科 |

【背景および目的】

日本臨床工学技士教育施設協議会（以下、協議会）では、教育水準の向上を目指して、座学や実習、臨床実習等の現状と問題点を把握し、今後の臨床工学技士養成教育の在り方等について検討している。今回、臨床業務のうち高気圧酸素治療（HBOT）に関連する学内教育および臨床実習に関連するアンケート調査を実施し、その結果をもとに、今後の学内教育および臨床実習の在り方等について検討したので報告する。

【対象および方法】

調査対象は平成26年度の協議会加盟施設64施設で、調査は平成27年4月3日から4月24日に実施した。調査方法はアンケート用紙による回答とし、調査項目は①基礎的項目については学校種別、所在地など、②学内教育（座学と実習）については設定科目、授業コマ数および実習コマ数、担当教員、満足度など、③臨床実習については実施状況、施設数、実習日数、満足度などの18項目とした。

【結果】

1. 基礎事項について

アンケートは、64施設中25施設から回答を得た（回答率：33.8%）。内訳は大学40%（10施設）、専門学校60%（15施設）で、各地域からの回答であった。

2. 座学および学内実習について

授業科目の設定については呼吸療法の一部に設定しているのは22施設（88%）、単独科目として設定しているのは1施設（4%）、医用治療機器学などでの特別講義として設定しているのは2施設（8%）であった。また、講義のコマ数（90分/コマ）については2～3コ

ま行っているのは16施設（64%）、4～7コマ行っているのは5施設（20%）、10コマ以上および1コマ以下はそれぞれ1施設であった。コマ数の満足度については、「十分満足」が7施設（28%）、「不足」が3施設（12%）、「どちらとも言えない」が15施設（60%）であった。担当教員については、学内教員が担当している施設は18施設（72%）であるが、うち12施設（66%）は臨床経験を有しない教員が担当していることが分かった。学外から臨床経験を有する臨床工学技士を招聘している施設は7施設（28%）であった。学内実習については8施設（32%）で実施しており、そのうち7施設で1～2コマ、1施設で3～4コマで実施している。一方、17施設（62%）では、HBOT装置や設備、教員がいないなどの理由から実施できていないことが分かった。

3. 臨床実習について

学生全員が実施しているのは4施設（16%）、一部の学生が実施しているのは19施設（76%）、実施していないのが2施設（8%）あった。実習施設数は1施設のみで実施しているのは30%、2施設で実施しているのは4%、3施設以上で実施しているのは65%であった。臨床実習期間については半日が44%、一日が48%、2日以上が4%であった。未実習生に対しては、時間や実習施設の不足で実施していないという回答が大半を占めた。また、「すべての学生が見学できない」、「治療件数が少なくなっている」との不満があることも分かった。

【考察および結語】

養成施設ではHBOTに関する座学や学内実習および臨床実習について、質・量とも不足を感じているものとする。一方では、臨床実習は実習施設の確保が難しいこともあり、実習自体を励行項目として受け止めているという意見もある。このような状況下で、HBOTに関する教育レベルを維持するためには、養成施設側として学内講義への業務経験者を招聘することや、逆にHBOT業務未経験教員の臨床研修が行えるような体制作りを構築するなどの努力が必要である。また同時に、本学会（主に技術部会）、日本臨床工学技士会および当協議会と合同でHBOTに関する教育用DVDの作製（臨床実習前に必見）および最低限の臨床実習指導項目を設定するなど、早急に検討していく必要があると考える。